**様式３．事業計画書（コーディネート団体用）※文字の大きさは10pt～10.5ptを使用してください。**

**■基本方針**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| チームの事業名 |  | |
| コーディネート　　団体名 |  | |
| 課題実行団体名（必要に応じて欄を足してください） | | 事業名 |
|  | |  |
|  | |  |
|  | |  |
|  | |  |
|  | |  |
| テーマの選択  ☑を入れてください | □虐待、いじめ、不登校、ひきこもり、自殺など子ども・若者が抱える深刻な課題への支援  □日本社会における在留外国人が抱える課題解決への支援と多文化共生  □過疎地域におけるコミュニティの維持と環境保全 | |
| ３領域の区分と、  優先すべき社会の諸課題の種別  全ての実行団体の当てはまる箇所に、☑を入れてください  （複数可） | １）子ども及び若者の支援に係る活動  □①経済的困窮など､家庭内に課題を抱える子どもの支援  □②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援  □③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援  ２）日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動  □④働くことが困難な人への支援  □⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援  ３）地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動  □⑥地域の働く場づくりの支援  □⑦安心･安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援 | |
| チーム結成の意図 |  | |
| 課題実行団体に期待する役割 |  | |
| コーディネートの基本スタンス |  | |

**１．解決したい社会的課題、達成目標、将来展望**

|  |
| --- |
| 1.1.1　申請する事業によって解決したい社会的課題、課題の当事者（現場）の現状、及び、既存の取組みの成果と課題をどのように認識しているかを記述してください。 |
|  |
| 1.1.2　1.1.1で記述した課題を生じさせている原因分析と、その解決策の方向性について記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1.1.3　1.1.1に記述した課題について、チーム全体の中長期的な達成目標を記述してください。現状の打開、或いは、あるべき将来の姿を想定した達成目標を設定してください。（「中長期的」の時間軸は自由としますが、何年位先を構想しているかがわかるように書いてください） |
|  |
| 1.1.4　中長期的な達成目標に向けた、短期的な達成目標（申請事業終了時（３年後）に、どんな状態を達成するのか）を記述してください。協議体(チームの発展形態)がどのような構成員で組織化され、どのような役割を果たすようになっているのか、達成状況を説明する指標（定量的・定性的いずれも可）を示し、できるだけ具体的に記述してください。 |
|  |
| 1.1.5　申請事業終了以降、事業を継続し協議体を持続的に運営していく展望について記述してください。人材確保、財源確保、政策提言・行政制度化あるいはビジネス化など、可能な範囲で具体的に書いてください。 |
|  |

※枠の幅の変更は可能ですが、基本方針～1は、４頁以内（または程度）に収めてください。

**２．事業成果目標、事業内容、協議体づくり**

**２.１ 事業成果目標と事業内容**

|  |
| --- |
| 2.1.1　１年目～３年目に、コーディネーター団体が行う事業内容と、各々の「達成目標」「成果目標」を記述してください。その際、公募要項P.7を参考に、３年間で包括的な協働・連携体制（協議体）の構築がステップを踏んで進むことを意識して書いてください。 |
| **【１年目の事業】** |
| **【１年目の事業内容】**  **（１）共通目標を設定・達成し、協議体を構築するための取り組み**  **（２）チームの事業をコーディネートする取り組み（コーディネート団体が具体的事業を行う場合はこちらに含める）** |
| **【１年目の事業の「達成目標」と「成果目標】**   |  |  | | --- | --- | | 事業の達成目標　（アウトプット＝事業の実施により生み出された「結果」） | 事業の成果目標　（アウトカム＝アウトプットがもたらす「便益」や「変化」） | |  |  | |

|  |
| --- |
| **【２年目の事業】** |
| **【２年目の事業内容】**  **（１）共通目標を設定・達成し、協議体を構築するための取り組み**  **（２）チームの事業をコーディネートする取り組み（コーディネート団体が具体的事業を行う場合はこちらに含める）** |
| **【２年目の事業の「達成目標」と「成果目標】**   |  |  | | --- | --- | | 事業の達成目標　（アウトプット＝事業の実施により生み出された「結果」） | 事業の成果目標　（アウトカム＝アウトプットがもたらす「便益」や「変化」） | |  |  | |
| **【３年目の事業】** |
| **【３年目の事業内容】**  **（１）共通目標を設定・達成し、協議体を構築するための取り組み**  **（２）チームの事業をコーディネートする取り組み（コーディネート団体が具体的事業を行う場合はこちらに含める）** |
| **【３年目の事業の「達成目標」と「成果目標】**   |  |  | | --- | --- | | 事業の達成目標　（アウトプット＝事業の実施により生み出された「結果」） | 事業の成果目標　（アウトカム＝アウトプットがもたらす「便益」や「変化」） | |  |  | |

**２.２ 協働体づくり**

|  |
| --- |
| 2.2.1　チームとしての中長期目標、短期目標について、課題実行団体と現時点でどの程度認識の共有をしていますか。そこから、チームとしての合意と具体的な取り組みプランをつくっていくために、どんな点に重点を置いてコーディネートするのかを記述してください。 |
|  |
| 2.2.2　チームで知見・ノウハウを蓄積・共有して、新しい取り組みを生み出していくために、どんな点に重点を置いてコーディネートするのかを記述してください。 |
|  |
| 2.2.3　協力団体・専門家・企業・行政等、多様な関係者とどのような対話を行い、どう協議体を発展させていくのかを記述してください。 |
|  |

※枠の幅の変更は可能ですが、２は、５頁以内（または程度）に収めてください。

**３．社会的インパクト評価の実施時期および評価の方法等について**

本助成プログラムでは、事業サイクルの４つの場面（下表）で、社会的インパクト評価を行っていきます。社会的インパクト評価は、実行団体自身が行うことを基本としますが、CRCDF、JANPIAによる伴走支援も状況に応じて行います。以上を前提として記述してください。

「社会的インパクト評価」の詳細説明は、JANPIAのWEBサイトに掲載された「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針」p.6～にあります。URL　https://www.janpia.or.jp/hyouka/index.html

|  |
| --- |
| 3.１　コーディネート団体の取り組みの評価を行っていく際に、各場面でどのように評価に取り組むのか記述してください。 |
| |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | **評価のねらい** | **評価対象** | **評価指標** | **評価方法** | | 【事前評価】  事業前に事業の必要性・妥当性を判断する  （ニーズを確認する） |  |  |  | | 【中間評価】  進捗状況と予算・人材・方法など見直しの検討を行う（プロセス、実行体制を見直す） |  |  |  | | 【事後評価】  事業の成果の達成状況や事業の妥当性を検証を行う（事業の対象者の変化等を調べる） |  |  |  | | 【追跡評価】  成果や副次的効果や波及効果、過去の評価との比較検証を行う（事業の成果を全体的な視野から点検する） |  |  |  | |
| 3.2 これまで事業評価を実施したことがありますか。ある場合は、評価のねらい・評価方法・結果について、記述してください。 |
|  |

※枠の幅の変更は可能ですが、３は２頁以内（または程度）に収めてください。

**４．進捗管理・リスク管理**

本助成プログラムでは、事業開始から終了まで、6か月毎に（「上半期＝4月～9月」「下半期＝10月～3月」）進捗管理と自己評価を行い、その内容をCRCDF、JANPIAに報告していただきます。

|  |
| --- |
| 4.1　**進捗管理**（１）平時の事業の進捗管理体制、(2)６か月毎に進捗管理・自己評価を行う時の体制について、誰が（どんな機関が）どんな方法で行うのかを記述してください。 |
|  |
| 4.2　**リスク管理**　事業実施上で想定できる重要なリスクについて２、３挙げ、誰が、どのように管理・対応するかを記述してください。（リスク例：「対外的な協力者が広がらない」「構成団体間の合意形成が進まない」「自己資金・民間資金が集まらない」等） |
|  |

**５．実施体制と組織基盤強化**

|  |
| --- |
| 5.1　コーディネート団体としての実施体制を記載してください。また、事業責任者・主要従事者については、氏名と経験・専門を簡潔に記してください。それ以外に、主要な役割を担う外部協力者がいれば、同じく氏名と経験・専門を記してください。 |
|  |
| 5.２　事業を通して、コーディネート団体の組織基盤のどんな点をどのように強化したいと考えますか。今回の事業を実施・持続していく上で課題となる部分は何か、それを事業を通してどう改善強化することを目指すのかをわかりやすく書いてください。 |
|  |

**６．広報戦略、波及効果**

|  |
| --- |
| 6-1　活動内容の認知、説明責任を果たすために、地域・社会や事業の関係者に対して広報にどう取り組むのか、具体的に記述してください。（伝える内容・ねらい、対象、広報手段、時期・タイミング、期待される効果等） |
|  |
| 6-2　事業から得られた学びについて、どのように情報発信や政策提言等に取り組み、組織・地域・分野を超えて共有し、課題解決への波及効果を生むのかを記述してください。 |
|  |

**７．関連する主な実績**

|  |
| --- |
| ７　申請事業に活用できる知見・ノウハウを示す主な実績について、事業名・事業内容・成果を簡潔に記述してください。（主要なものを３つまで） |
|  |

※枠の幅の変更は可能ですが、４～７で３頁以内（または程度）に収めてください。

※「■基本方針」～「７関連する主な実績」を15頁以内に収めてください。